2020 年度（令和 2 年度）

福山大学 FD・SD 活動報告書

福山大学大学教育センター

教育開発部門

目次

はじめに ..... - 1 -

1.　第 1 回 FD・SD 研修「第 7 回福山大学教育改革シンポジウム」 ..... - 3 -

2.　令和 2 年度福山大学学部・学科・大学院研究科の FD・SD 活動報告 ..... - 6 -

3.　総括 ..... - 8 -

はじめに

教育基本法はその第 9 条で教員の資質・能力の向上について定めている。曰く、「法律に定める学校の教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。」「前項の教員については、その使命と職責の重要性にかんがみ、その身分は尊重され、待遇の適正が期せられるとともに、養成と研修の充実が図られなければならない。」と。学校教育法のいわゆる１条校たる大学の教員が、ここにいう教員に含まれないはずはない。とりわけ、大学を取り巻く内外の環境の劇的な変化の中で教員に求められる資質・能力が高度化し拡大している状況の下、それに対応しうるための研修の重要性は日増しに高まっていると言っても過言ではない。平成 25 年 5 月 28 日に教育再生実行会議はその第三次提言「これからの大学教育等の在り方について」の中で、①グローバル化に対応した教育環境づくりを進める、②社会を牽引するイノベーション創出のための教育・研究環境づくりを進める、③学生を鍛え上げ社会に送り出す教育機能を強化する、④大学等における社会人の学び直し機能を強化する、⑤大学のガバナンス改革、財政基盤の確立により経営基盤を強化する、という 5 つの課題を掲げた。これからの大学教員に求められる資質・能力とは、これらの課題に適切に対処しうる力であろうし、そのための研修機能ないし FD（ファカルティ・ディベロップメント）の充実強化がいっそう図られねばならない。

本学では、授業内容・方法の改善、教員の資質・能力向上等、大学教育の質的な向上を目的とした組織的な取り組みとしての FD の重要性が早くから認識され、十数年前から研究・研修活動が続けられてきている。当初は、教務委員会および自己評価委員会が中心となって企画・運営されてきたが、平成21 年4 月に大学教育センターが設置されると、翌々年の平成 23 年（2011）以降は、センターの教育評価・改善部門（平成 26 年度より教育開発部門に改称）がその役割を引き継ぎ、今日に至っている。そのため、「大学教育センター規則」の第 3 条には、担当業務 10 項目のうちの第二として「教育内容・教育方法の改善に係る全学的な企画，推進，組織的な研修（FD）に関すること」が明記されている。同規定に基づき、現在、全学的な取り組みとして、大学教育センター教育開発部門が中心となって、FD 活動を実施している。また、これらの FD 活動については事務職員の参加も奨励しており、テーマによっては SD（スタッフ・デベロップメント）活動にもなっている。

ところで、規模や内容など大学や学部・学科の特色が異なれば、FD・SD のニーズが異なるのは明らかであり、大学全体としての取り組みの他にも、各学部や学科単位で研修活動が行われることが望ましい。こうした観点に立って、本学では全学的な FD・SD に加えて、学部・学科・研究科ごとにも FD・SD の諸活動を展開している。

令和２年度は、COVID-19 の蔓延状況を考慮して、大学教育センター主催の全学 FD・SD 活動は１回のみ実施した。その他、各学部・学科・研究科は、独自に FD・SD 活動を実施した。本

報告書は、令和２年度に実施されたこれらの FD・SD 活動の記録をまとめたものである。

令和３年 3 月 31 日

大学教育センター　センター長　大塚 豊

同　教育開発部門長　佐藤英治

1.　第 1 回 FD・SD 研修「第 7 回福山大学教育改革シンポジウム」

令和 2 年 9 月 14 日（月）、第 7 回福山大学教育改革シンポジウムが大学会館大ホールで開催された。従来は 1 号館大講義室（01101 教室）で実施していたが、今年度は COVID-19 の蔓延防止の観点から、より広い会場で実施することとなった。本年度の教育改革シンポジウムは、「遠隔教育を考える」をテーマとし、1）基調講演 1 演題、2）遠隔授業評価アンケート結果報告、3）遠隔授業実践事例報告、4）全体討議の 4 部構成で実施された。教職員の参加は教員 198 名、職員 7 名であった（オンデマンドビデオ研修として参加した教員 26 名を含む）。

第 1 部の基調講演では、北陸大学経済経営学部学部長・教授 山本 啓一 先生より、「遠隔授業の授業設計と授業方法」という演題で北陸大学での遠隔授業の取り組み、実践事例、学生アンケートの結果、今後の課題等について講演があった。特に、複数の教員が協力して 1 つの遠隔授業を組織的に作り上げたこと、複数の ICT ツールを柔軟に使用していること、遠隔授業において、効率的・効果的なアクティブ・ラーニングが実施されていることが印象深かった。このような大学レベル、学部レベルでの組織的な取り組みや具体例が紹介され、本学の遠隔授業のさらなる発展に非常に有用な情報が提供された。

第 2 部の遠隔授業評価アンケート結果報告では、本学大学教育センター教育開発部門長、薬学部教授 佐藤 英治より、今年度前期に実施された遠隔授業について、①学生のネットワーク環境アンケート、②遠隔授業の科目別アンケートの 2 種類の結果について報告があった。①学生のネットワーク環境アンケートでは、実家に帰省して遠隔授業を受講した学生は 17%であること、使用端末は PC が 72%であること、インターネット環境に起因するトラブルのあった学生は 15%であること等の本学学生のネットワーク環境の実態や、Zoom を使用した授業の是非、遠隔授業の授業実施時間の制限の是非、ネットワークを用いたレポート提出時のトラブルなど、より具体的な学生の意見が紹介された。②遠隔授業の科目別アンケートでは、授業の形式、課題の形式、学生自身の取り組み度、教員によるフィードバックやサポート等について、全学レベルでの数値化したデータが報告された。遠隔授業アンケートの結果については、「2020 年度（令和 2 年度）学生による授業評価アンケート実施報告書」に記載されている。詳細は、本学 HP を参照されたい。

第 3 部の遠隔授業実践事例報告では、遠隔授業アンケートで学生の評価の高かった 3 つの授業について、担当教員より以下の報告があった。

1.　「パワーポイントを用いた遠隔授業の成果と課題：〈現代ヨーロッパ事情〉の実践例」
　人間文化学部人間文化学科准教授 村上 亮（音声・動画のない授業例）

2. 「思い出に残るノートを作ってもらおう」
工学部スマートシステム学科教授 香川 直己（音声・動画のある授業例）
3. 「Zoom を使ったいつも通りの授業と少しの工夫～建築学科 1 年〈住宅計画〉の授業より～」
工学部建築学科准教授 佐々木 伸子（Zoom を用いた授業例）

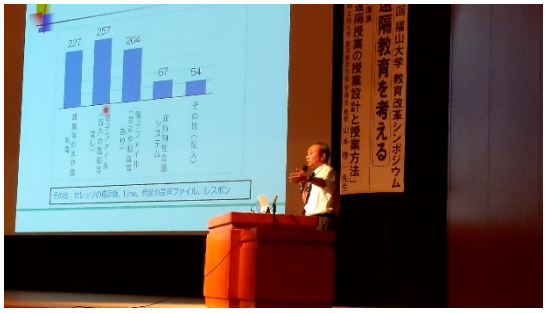
各報告では、授業の工夫や改善点、学生の反応について解説があり、その内容を全教員が共有することができた。この事例報告は、個々の教員が自らの授業を振り返るきっかけとなり、今後の授業改善に役立つものと考えられた。

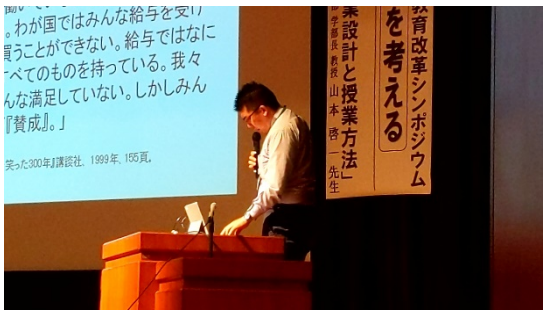
第 4 部の全体討議では、参加教員から、遠隔授業は対面授業よりもよいのではないか、教育用 ICT ツールを多様化する必要があるのではないか、等の質問がなされ、山本 啓一 先生および本学パネリストを含めて全体討議が行われた。

本シンポジウムの具体的な内容は『大学教育論叢』第 7 号（福山大学大学教育センター、2021 年 3 月）に記載されている。詳細は同書を参照されたい。

オンライン
アン
ケートの
実施

カッションやパワーポイン
を習得
のライセンス契約開始。
ンス版を利用可能
シー」科目や「基礎ゼミ
心に、Googleフォーム、
中。
改革シンポジウム
計と授業方法」
教授 山本啓一先生


227
257
204
67
54
福山大学 教育改革シンポジウム
隔教育を考える
授業設計と授業方法


わが国ではみんな給与を受け
買うことができない。給与ではなに
べてのものを持っている。我々
んな満足していない。しかしみん
『賛成』。」
笑った300年』講談社、1999年、155頁。
教育改革シンポジウム
を考える
業設計と授業方法」
学部長 教授 山本啓一先生

ube、同期型ツール（Zoom等）
ティは？
く）
特徴は何？
そも何？
教育改革シンポジウム
を考える
業設計と授業方法」

ンド）
ンデマンド）
ライン）
授業スライドだけみてわかるようにするのは時間がかかりそう
撮影して編集するのは時間がかかりそう
これまでの授業資料をそのまま使える
教育改革シンポジウム
を考える
業設計と授業方法」

2.　令和２年度福山大学学部・学科・大学院研究科の FD・SD 活動報告

学部・学科・大学院研究科では、各組織の専門性や特性に合わせて、以下の FD・SD 活動が実施された。

令和2年度大学院研究科及び学部・学科FD・SD研修実施調査表

研究科・学部名・学科名	テーマ	FD or SD	実施回数	実施場所	実施日時	講師	参加人数	成果
経済学部・経済学科	教養ゼミ・基礎ゼミの運用改革と学修成果の評価基準の統一に関する改訂案について	FD	1	Zoomによるオンライン研修	令和2年9月3日 16:30～17:30	北浦　孝（経済学科教授） 田中征史（経済学科講師）	教員14名	「教養ゼミ・基礎ゼミの運用改革と学修成果の評価」の方法について研修した。その結果、新しいカリキュラムが完成し、実施への協力体制が確立した。
経済学部・経済学科	留年対策としての学力低位学生への指導について	FD	1	1号館第1会議室	令和3年3月11日 13:00～14:30	北浦　孝（経済学科教授）	教員14名	留年生の発生原因と問題点の把握のために事例発表を行い、その対策について討論形式での研修を実施した。その結果、学力低位学生への指導方法として本人と保護者との適切な連絡の必要性が再確認できた。
経済学部・国際経済学科	教養ゼミと基礎ゼミにおける教育手法改善について	FD	1	1号館5階01523教室	2021年1月29日 14：30～15：30	足立浩一（国際経済学科教授）	教員6名	今年度までの反省に基づき来年度以降の授業方法と目標をディスカッションし決定することができた。
経済学部・税務会計学科	動画で学科案内（学科5分程度）の作成について	FD	1	１号館5階01523教室	令和2年5月19日 12：20～13：20	小林正和（経済学部教授）	教員8名	Zoomを使って模擬講義等の説明、理解を図るためのプログラムについて研修した。
経済学部・税務会計学科	入学生増加施策の検討	FD	1	１号館5階01523教室	令和2年7月14日 12：20～13：20	小林正和（税務会計学科教授）	教員8名	入学生増加施策を策定し、高校訪問やオープンキャンパスに活かすための方法を研修した。
人間文化学部・人間文化学科	オンライン授業について	FD	1	1号館3階第１会議室	4月4日	内垣戸貴之（人間文化学科准教授）	教員8名	学部FD/SD研修の一環として、オンライン授業の実施方法やズーム等の活用の仕方について研修した。
人間文化学部・人間文化学科	ハラスメント研修	FD	1	オンライン会議	令和2年12月16日 16:00～16:20	田中始男（人間文化学科教授）	教員8名	学部FD/SD研修の一環として、ハラスメントについて研修した。
人間文化学部・人間文化学科	学部生・留学生の学習状況に関する情報交換	FD	11	1号館4階資料室	令和2年4月2日、6月10日、7月15日、8月19日、9月16日、10月14日、11月14日、12月9日、令和3年1月20日、2月17日、3月5日	小原友行（人間文化学科教授） 柳川真由美（人間文化学科准教授 村上　亮（人間文化学科准教授） 重迫隆司（人間文化学科教授）	教員8名	課題のある学生と成果の上がった学生に関する情報共有と指導方法の確認
人間文化学部・心理学科	卒業ゼミ、心理学課題実習の後期評価等について 行動調査票への未回答者への対応について	SD	1	29号館2階コミュニティルーム	令和2年9月16日 11:50-13:00	なし	教員11名(助手2名含む)	コロナ禍における卒業ゼミ、心理学課題実習の評価、発表会について検討した。 行動調査票未回答者への学科としてできる対応策を検討した。
人間文化学部・心理学科	2021年度に新入生・在校生を対象とした、遠隔授業に関するオリエンテーションについて	SD	1	29号館3階多目的ルーム	令和3年3月17日 14:00-14:30	なし	教員11名(助手3名含む)	2020年度の遠隔授業における問題点を洗い出し、2021年度新入生、在校生を対象とした遠隔授業オリエンテーションの内容について検討した。
人間文化学部	授業配信等のICT活用について実演等	SD	1	1号館3階第1会議室	令和2年4月8日 17:00～17:20	枝廣和憲（人間文化学科准教授）、内垣戸貴之（人間文化学科准教授）	教員24名 事務職員1名	オンライン講義の実施に関する手法について研修を行った。
人間文化学部	ハラスメントに関する研修	SD	1	1号館3階第1会議室	令和2年12月16日 16:00～16:20	田中始男（人間文化学科教授）	教員26名 事務職員1名	各種ハラスメントに関して注意すべき事例などの研修を行った。
工学部・スマートシステム学科	大学電気教員協議会総会での大学電気工学教育研究集会「電気系科目の教育の状況と課題」の報告	SD	1	リモート	令和2年10月2日 12:15～12:45	仲嶋　一（スマートシステム学科教授）、香川　直己（スマートシステム学科教授）	教員10名（助手1名含む）	各大学のコロナ禍における取組状況の報告を共有した。
工学部・スマートシステム学科	学科の2020年度の成績傾向について	SD	1	リモート	令和3年2月22日 15:30～16:27	仲嶋　一（スマートシステム学科教授）	教員9名（助手1名含む）	2年次生、3年次生の成績状況ついて、後期ＧＰＡの低下やその原因について意見交換を行った。
工学部・スマートシステム学科	令和2年度自己点検評価報告案および令和3年度中長期計画について	SD	1	リモート	令和3年3月11日 12:20～13:59	仲嶋　一（スマートシステム学科教授）	教員10名（助手1名含む）	令和2年度自己点検報告案の各項目の内容の確認、修正を行った。 令和2年度中長期計画をもとに各項目の内容を確認、修正を行った。
工学部・スマートシステム学科	令和2年度自己点検評価計画案について	SD	1	リモート	令和3年3月25日 12:20～13:00	仲嶋　一（スマートシステム学科教授）	教員9名（助手1名含む）	令和3年度自己点検計画案の各項目の内容の確認、修正を行った。
工学部・スマートシステム学科	令和2年度授業評価アンケート報告について	SD	1	リモート	令和3年3月25日 13:00～13:30	仲嶋　一（スマートシステム学科教授）	教員9名（助手1名含む）	授業評価アンケートについての分析と、改善についての議論を行った
工学部・建築学科	留年させない取り組み	FD	1	Zoom	令和3年3月11日 10:00～12:00	都祭弘幸（建築学科教授）	教員10名	今年度は3年次生の留年率がこれまでになく高い年であった。その要因を様々な観点から分析し、意見交換を行った。1･2年生の成績に兆候が見られることが分かった。
工学部・情報工学科	授業評価アンケートに関するFD	FD	1	２号館２階会議室	令和3年2月24日 11:00時～12:00	なし	教員9名	令和２年授業アンケート結果に関して総括した。
工学部・情報工学科	GPAを利用した単位取得状況に関するFD	FD	1	２号館２階会議室	令和3年3月4日 17:00～18:00	なし	教員9名	累積GPAを踏まえて、留年及び退学者を減らす方策を議論した。

工学部機械・システム工学科	メディア授業をどのように行うか	SD	1	CLAFT	令和2年4月13日 13:00～15:00	内田博志（機械システム工学科教授）	教員11名 （助手1名、他学科教員2名含む） 臨時技術職員1名	コロナウイルス対策としてのメディア授業に関する文科省・他大学の動きと、遠隔授業を実施する上での対応技術について研修した。
工学部機械・システム工学科	大学教育における合理的配慮はいかにあるべきか	SD	1	Teams会議	令和2年5月1日 16:30～17:50	内田博志（機械システム工学科教授）	教員9名（助手1名含む） 臨時技術職員1名	障害のある学生の修学支援に関する基本的考え、そうした学生が入学した場合の対応策について研修した。
工学部機械・システム工学科	機械システム工学科改革構想	SD	1	Teams会議	令和2年8月12日 16:30～17:50	なし（討議形式で実施）	教員9名（助手1名含む） 臨時技術職員1名	創造機械工学コースと環境機械工学コースの2コース制とする学科将来構想案について意見を交わした。
工学部機械・システム工学科	学科PBL授業の来年度シラバス策定	SD	1	32号館2F教室	令和2年12月1日 16:30～17:50	なし（討議形式で実施）	教員4名（助手1名含む） 臨時技術職員1名	学科のPBL授業である、モノづくり実習、ロボット・デザイン、EV創作の、あるべき実施方法について意見を交わした。
工学部機械・システム工学科	ポスト・コロナ時代のものづくり教育を考える	SD	1	Teams会議	令和3年3月15日 13:00～14:30	内田博志（機械システム工学科教授）	教員9名（助手1名含む） 臨時技術職員1名	ポスト・コロナに関連する文科省等の政府方針、他大学の取り組み状況、産業界の考えについて研修した。
生命工学部・生物工学科	生物工学科における学生対応について	SD	1	17号館１階講究室	令和3年2月5日 16:30～17:00	岩本博行(生物工学科教授)	教員12名 （助手1名を含む） 事務職員0名	生物工学科における教職員の学生対応について、実例を示してここのケースについてその対応を検討した。
生命工学部・生命栄養科学科	令和3年度卒業システム(卒業演習Ⅰ・Ⅱ）の改定と管理栄養士特別演習（授業ポイント）の検討	SD	4	18109又は18203	令和3年2月9日、2月16日、2月26日、3月4日	吉田順子（生命栄養科学科准教授） 石井香代子（生命栄養科学科教授）	教員13名 （助手5名含む） ※2/16と3/4は助教以上出席	4年次授業（卒業演習､管理栄養特別演習）の要点・評価方法等の授業の組みたてと評価について学科教員間の理解を確認できた。
生命工学部・海洋生物科学科	予算要求（高額機器）中長期整備計画表案について	FD	1	16号館3階1631教室	令和2年7月1日 15:30～17:00	高村　克美（海洋生物科学科教授）	教員10名 （助手0名含む） 事務職員0名	5年後の学科の教育・研究を整備するための予算要求（高額機器）中長期整備計画表（令和3（2021）年度～令和6（2024）年度）を作成した。
生命工学部海洋生物科学科	メンタルヘルス及びパワーハラスメントに関する研修	SD	1	因島キャンパス3号棟研修室	令和2年9月18日 9:00～11:00	有瀧　真人（海洋生物科学科教授）	教員7名 （助手2名含む） 事務職員4名	因島キャンパスの研修においてパワーハラスメントについて正しい理解と防止対策を行った。
生命工学部海洋生物科学科	因島キャンパスのグラウンドデザイン案について	FD	2	因島キャンパス3号館研修室	令和2年12月23日 10:00～11:30、令和3年1月5日10:00～11:00	有瀧　真人（海洋生物科学科教授）	教員5名	中長期の因島キャンパスにおけるグランドデザインを作成した。
生命工学部海洋生物科学科	令和3（2021）年度の前期学生実験の運用計画案について	FD	1	16号館3階1631教室	令和3年2月15日 16:00～17:00	高村　克美（海洋生物科学科教授）	教員13名	令和3（2021）年度の前期学生実験の運用計画（日程、実習形態（対面または遠隔）、クラス分け、実習室（本学または因島キャンパス）、バスの運行計画）を作成した。
薬学部・薬学科	コミュニケーション交流学習-ホスピタリティの涵養とコミュニケーション能力の向上をめざして-	FD	1	34号館２階34201教室	令和2年11月13日 11:00～11:45	井上　裕文（薬学部教授）	教員44名 （助手9名含む） 事務職員1名	現行のコミュニケーション交流学習の成果と今後の展望について研修した。
共同利用センター	オンライン講義に関する講習会	FD	4	7号館プロジェクトラウンジ	令和2年4月15日 10:00～11:00・13:00～14:00 4月16日10:00～11:00・13:00～14:00 （実施内容は同じ）	金子邦彦（情報工学科教授）記谷康之（大学教育センター助教）片桐重和（IRセンター助教）　瀬島紀夫（共同利用センター講師）	教員56名	全学におけるオンライン講義がスムーズに実施できるように、スライド録画やビデオ配信についての研修を行った。
共同利用センター	講義収録配信システムの講習会	FD	2	7号館プロジェクトラウンジ	令和2年10月30日 11:00～12:00 11月5日13:00～14:00 （実施内容は同じ）	金子邦彦（情報工学科教授）記谷康之（大学教育センター助教）片桐重和（IRセンター助教）　瀬島紀夫（共同利用センター講師）	教員20名	講義収録配信システム・メディアサイトクラウドの利用方法について研修を行った。
大学教育センター	授業改善の一環としての授業研究	FD	2	教室および紀要誌上	前期および後期	上西幸治（大学教育センター教授） 記谷康之（大学教育センター助教）	教員13名	コロナ禍への対応として、２本の授業実践記録を大学教育センター紀要に掲載し、これを皆が閲読することでもって実質的には従来の「授業研究」（FD）の歩みを継続することとした。
人間科学研究科	大学院における遠隔授業のあり方について	SD	1	29号館3階多目的ホール	令和3年2月12日 14：45～15：00 (SharePointに置いたファイルへのコメントは2月28日まで行った)	平　伸二（心理学科教授）	教員12名 （助手2名含む） 事務職員1名	大学院生アンケートの結果を研究科長がPowerPointで説明し、特に、評価が低かった「【質問9】オンラインでの授業による学びは、効果がありましたか」「【質問15】研究は順調に進んでいると思いますか」「【質問22】TAなどの経験について」について情報交換を行った。議論では公認心理師資格に関する実習と研究の両立の問題が指摘された。そして、研究を順調に進めるために、指導教員のみならず、副指導教員、主査・副査はもちろん、他の教員からもアドバイスを行い、学会発表、学会誌投稿を進めることで問題解決に繋がることを確認した。
グリーンサイエンス研究センター兼大学院FD	第47回グリーンサイエンスセミナー「臭覚センシングの実用に向けたにおいセンサーの開発」	SD	1	17号館2階1721講義室	令和2年12月4日 15:00～16:00	服部将志（太陽誘電㈱開発研究所機能デバイス開発部兼新事業推進部）	教員30名 （助手2名含む）	㈱太陽誘電の臭覚デバイス開発状況について学び、本学との共同研究や用途開発について議論した。
薬学研究科	ストップ！キャンパス・ハラスメント-これってハラスメント？-	SD	1	34号館2階34201教室	令和3年1月27日 12:25～12:55	日下部典子（心理学科教授）	教員51名 （助手11名含む） 事務職員1名	キャンパスハラスメントの現状と、起こさないようにするための対策について研修した。

3.　総括

令和 2 年度の全学レベルの FD・SD 活動は、COVID-19 の蔓延予防の観点から、縮小して実施された。一方、学部・学科レベルの FD・SD 活動は、昨年度（計 36 回開催）に比べ、同等以上の回数が実施された（計 38 回）。従来の教育改善に向けた取り組みに加え、COVID-19 蔓延下での学部・学科における教育の在り方について、教員が真剣に取り組んだ証だと考えられる。

さて、今年度は、教員にとっては、試行錯誤を繰り返しながら遠隔授業に取り組んだ 1 年であったが、同時に、教育の手法や ICT について多くの知識や技能を習得し、さらには教育の在り方を見つめなおすことができた 1 年でもあった。また、今年度は、遠隔授業アンケートを実施し、学生の遠隔授業に対する率直な意見を収集することもできた。教員は、この 1 年で得られた知識や技能、経験を活かして、そして学生からの率直な意見に耳を傾けて、さらなる授業改善を推進していく必要がある。

このような状況下、教育改革シンポジウムは遠隔授業をテーマとして取り上げた。基調講演として、北陸大学の山本 啓一 先生には、大学としての遠隔授業の組織的な取り組み事例についてご講演をいただき、その後、本学での遠隔授業アンケートの結果報告、遠隔授業アンケートで学生からの評価の高かった授業についての事例報告へと続いた。今後も遠隔授業は継続されるものと予想される。本学の遠隔授業の実態を把握できたこと、学内外の良い実践事例について情報共有できたことは、今後、遠隔授業を実践していく教員にとって非常に有用であった。今後も、授業改善・教育改革に向けて、学生・教員・社会から求められるテーマについて、効果的な FD・SD 研修を実施していきたい。